

2012年11月28日実施 「ESDの10年・世界の祭典」推進フォーラム主催

ESDテーマ会議2012

総括会合—PART1 個別発表データ

歴史文化遺産と人材育成

ファシリテーター

奈良教育大学 中澤静男

5つの事例報告

学校教育

八名川小モデル

大田市モデル(銀山学習)

生涯教育

平泉モデル(世界遺産塾)

大牟田モデル(子ども大牟田検定)

奈良モデル(大人を対象に)

協議内容

- ① 歴史文化遺産のESDの要素としての有効性
- ② 持続的なESD指導教員・指導者の育成
- ③ 歴史文化遺産を通じた人材育成の広げ方

①歴史文化遺産のESDの要素としての有効性

事例報告から見えてきた効果

- 地域の文化遺産を知ること
- 文化遺産の保護・継承に関わってきた人材を知ること

地域の対する誇りを養う

- すべての文化遺産が、大切に守られ、伝えられてきたものであり、現在もそれにたずさわる方がおられる。
- 文化遺産を学び、人材と出会うことで、地域を大切に思う心が養われる。

**地域を大切に思う心こそが、
持続可能な地域社会実現の基盤**

地域への誇り

- 次世代を受け継ぐ者としての当事者意識
- 未来につくっていききたい地域を考える

未来志向な学びへ

歴史の深浅は関係がない

歴史文化遺産の有効性

- 世界遺産を教材化することは、他地域・海外とつながる契機にできる 世界遺産はツール
- 地域遺産の学びは、全国モデルになりうる
(全国どこでも扱うことができる)

持続可能な指導者育成（人材育成）

- * 地域の歴史文化遺産の価値を伝えることができる人材の育成
- * 地域の歴史文化遺産をESD教材として指導できる教員の育成
（子どもの学びに火をつける教員）

コアな人を広げる

* 活躍の場が大切

○ボランティアガイド

○教材開発

教育者と研究者と地域の人
(ボランティア)

の協働による教材開発

ひとつの課題

- * 予算的な裏付け

大田市における基金化

社会的な資金をつくりあげていく仕組み

歴史文化遺産によるESDを広げる

キーワードは

ユネスコスクール
観光

観光の意義

- * 観光とは、国の光(宝物)を観るもの
- * 観光の中身は、文化
- * 観光は学びの入口
- * 観光は社会人のESD

今後の行方

- *物見遊山から価値を追究する観光に変わってきているという現状がある。

- * 学校教育における生活科や総合的な学習の時間における歴史文化遺産を通したESDの学び
- * 社会人の観光ESD
- * 歴史文化遺産を通したESDは大きくならねりとなっていく



歴史文化遺産ESDのブーム



Informational sign with text and graphics, partially obscured.

二月全参詣